

## 第三十九回フオト旬会優秀作品(26年4月14日)

### 自由題



戦後史をおまけでたどる

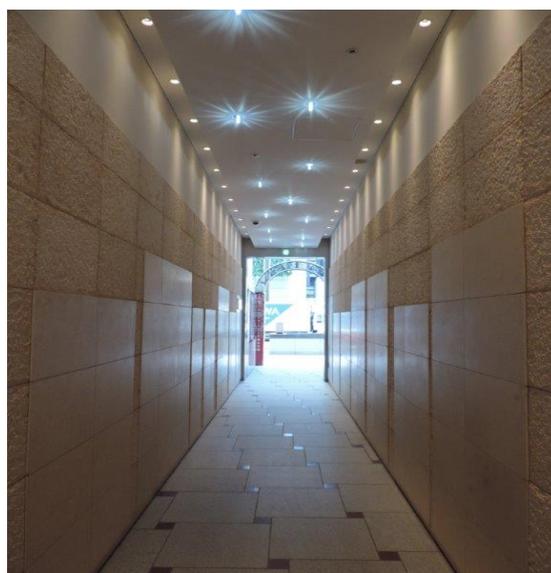
大人たち 三 春

寸 評：一粒で三百メートル走ることができる、エネルギーの元はグリコーゲンなので名前がグリコ。懐かしいですね。森永や明治キャラメルに対抗するために次々にオマケを考案して、子供達はそれを楽しみにしておりました。

銀座つうビルの谷間の

けもの道 矢沢 正二

寸 評：そうそう銀座通りのビルの間には細い抜け道があり、酔客がもう一軒次の店にゆくのによく利用したものです。こんなきれいな道ではなかったが、「けもの道」と表現したのが良かった。夜な夜な酔った虎が通ったものです。



七転び八起きひしめく

OB会 池田 隆

寸評：滑ったり転んだりして  
なんとか定年を迎え、久しぶりに  
懐かしい仲間と会えるOB会。  
皆それなりの年齢になり、頭髪が  
淋しくなった人ばかりだ。



里は花いまだ凍てつく

山の春 池田 隆

寸評：早春の榛名湖畔。山麓では  
桜が満開というのに未だ氷雪の世界  
だ。「山眠る」という冬の季語がある  
が、山が目覚める時期も間もないだろ  
う。冷え冷えとした情景を撮ったきれ  
いな写真が印象的だ。

今月は池田さんが、世俗的な達磨と冷徹な自然と、題材を異にした二作品を  
出品され、どちらも高評価を得ました。

ふたつとも画像がきれいなので、カメラがいいのか、腕がいいのか論議が湧  
きましたが、結論は両方ともいい上に撮影アングルも良いということになりま  
した。

## 今月のお題写真



## 付け句

今月は大月さん出題の雪の朝の風景でした。なんとも特徴が掴みづらく皆さん苦吟したようで、結局、次の四氏が入選となりました。

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1) 親ぼやき子供よろこぶ雪の朝   | 大月 和彦 |
| 2) 積り雪兄弟喧嘩も何処へやら   | 三春    |
| 3) この場所はその娘のための指定席 | 下山 健夫 |
| 4) 駄句ひとつ思い浮かばぬ雪あれど | 池田 隆  |

寸評：

- 1) 画面を見なくてもつくれる当たり前の句ですが、作者が出題者なので敬意を表して入選。
- 2) 「積り雪」という表現法があるのかどうか疑問です。「兄弟喧嘩も何処へやら」という表現も意味不明です。それでも入選したのは人徳ゆえか？
- 3) 「あの娘」とは誰を指すのでしょうか。雪のないときには、いつもこの椅子に座っていたのでしょうか。若い娘がこんな場所に座っているとは考えられませんが。
- 4) 結局のところ、この画像は「付け句」のお題写真としてはあまり向いていないというところを句にしたこの作品が、一番共感を呼んだようです。

折角お題写真を送って下さった大月さんには申し訳ありませんが、こんな結果になりました。失礼の段、ご容赦下さい。